国賠同盟県本部、東青支部、久々の街宣

二一年度は、新型コロナウィルスのデルタ株、オミクロン株の拡散で街宣を度々中止せざるを得ない状況でしたが、三月二十二日、青森「さくら野」前で、久々に行うことが出来ました。

前日とうって変わり、天気もよく五名の方々が参加してくれました。東青支部の吉田さんがマイクを握り、通行人に『治安維持法国賠同盟の説明』『ウクライナの現状等』を訴えました。署名してくださった方々は口々に「戦争は絶対ダメ」、「子どもたちが気の毒で、気の毒で…」など会話しながら一筆書いてくれました。

天気は晴れでも海風厳しい新町通り、立ち止まって署名してくださった方々に感謝し、来月もより一層訴えかけ頑張りましょう。

東青支部　細川弘彦

不屈

No. 574

編集発行人　田中幹夫

治安維持法犠牲者国家賠償要求同盟

〒113-0034
東京都文京区湯島2-4-4
平和と労働センター全労連会館内
電話 03-5842-6461
FAX 03-5842-6462
振替 00110-6-97793
定価　50円

青森県版
2022年4月15日発行
第 358 号

〒030-0904
青森市茶屋町11番5号
TEL 017-718-3166
FAX 017-718-3167
青森県本部

山毛欅（ぶな）

▽一月中旬のこと。夫の肝臓手術が無事終わり安心。六時過ぎ帰宅を急ぎバスに乗る。車内は暖かく、ホッとしてうとうと。やがて外を見て「ンッ?」見知らぬ町並。車内案内で、小柳・桜川経由で青森駅に向かうコースに乗ったのだ。バスは猛吹雪の中ノロノロ進む。どうしよう。夕食時間も過ぎて低血糖が心配だ。息子へのみやげを思い出した(草大福)二個。ムタムタと食べた。そのうち急な尿意が。渋滞しないでと祈る。動悸が早くなってくる。ここで失禁したくない。バスは市民病院附近を通過した。降りるなら今だ。弁当屋の看板が見えた。「トイレ貸して下さい」「うちトイレないんです」なんとー!! 道路向かいにコンビニが!! 雪を蹴散らし、ころがるように駆け込んだ。フーッ。タクシーで浪館の自宅に着いたのは九時。長い一日だった。（中野）

今後の行事についてのお知らせ

(1) 二〇二二年国会請願行動について

五月十一日(水)
十時～受付
十一時　開始
東京　衆議院第一議員会館集合

▽請願日まであと一ヶ月。全国では三月一日現在八三、五〇三筆で目標比の二一・七％の到達です。青森県本部でも立ち遅れています。同盟の底力を発揮し国会請願行動を成功させましょう。

▽署名は県の代表が参加しない場合締切が四月二十五日となります。最後まで取り組みを強めましょう。

(2) 国賠同盟第四十回全国大会の開催について

六月十二日(日)十三時～
六月十三日(月)十五時
東京全労連会館
(東京都文京区湯島2―4―4)

(議題)
・第四十回全国大会活動報告と運動方針
・財政報告
(収支決算・予算)および監査報告
・同盟中央役員
(三役・常任理事・理事)の選出
・その他

▽青森県本部の代議員数は二名
(会員二〇一名～五〇〇名は二名)です。代議員は五月九日(月)までに決め中央に報告のこと
(参加者を募ります)

▽大会議案は五月十五日付の中央版不屈に掲載されます。

(3) 国賠同盟第三十一回全国女性交流集会の開催について

十一月六日(日)～
十一月七日(月)
ニューウェルシティ湯河原

国賠同盟中央本部からの重要な要請について

国賠同盟中央本部は三月九日中央常任理事会を開催、第四十回全国大会に向け同盟活動の前進のための決意を固めました。あわせて全国の都道府県本部、支部、会員の皆さんに次の呼びかけを行ないました。

(1)「二万人同盟実現」のため知恵と力を発揮しましょう

中央では県本部、支部に「会員拡大推進本部」を確立し行動計画を立てて動くように要請しています。

そして顕彰制度として(五名拡大)不屈に氏名を発表(一〇名拡大)氏名発表と記念品DVD「種まく人びと」などを贈呈

青森県本部でもこの間、会員拡大は進んでいません。各支部、会員の皆さんのご奮闘を期待します。

(2) 国賠署名の取り組みを飛躍させましょう

(3) 映画「わが青春つきるとも―伊藤千代子の生涯」上映運動を成功させよう

(4) 学習、顕彰活動を活発化しつつ、財政活動を前進させましょう

★戦争のない平和な社会を願う多くの国民の期待に応えようと呼びかけました。

エッセイ

私が出合った子どもたち……㊵
『利夫(仮名)と仲間たち その②』

一戸 義規

四月、教職員十人が新たに赴任しました。新任の校長の願いで、私は生徒指導主任と一学年の学年主任の兼任になりました。

四月五日、利夫グループ(G)は、前日に学校に押しかけて一年生の教室の壁に穴をあけました。私はその日に修理しました。

翌六日は入学式でした。新入生が入学式への入場のために廊下で待っている時でした。私が見回りすると、利夫たちは一年生の前の階段に雛壇のように座りこんで、にやにやと一年生を眺めていました。彼らは「今、一年生の歓迎のために個々に座っている」と言い訳をしました。私は「あんたたちは歓迎って言ってるけど、一年生にとって迷惑だと思う、自分たちの部屋に戻るか、入学式の会場に入るかどちらかにしてほしいんだけど…」と言いました。少し間をおいて利夫は、「よし、部屋に戻るぞ」と仲間に声をかけて二階の自分たちの部屋に上がっていきました。利夫が私の初めての指導?を受け容れたことで、私は少しだけ展望が開けました。彼らは入学式の会場には現れませんでした。

利夫たちと保護者は、二年生の三学期に「このままの生活態度なら修学旅行に連れていけない(いかない)…」という脅しとも言える通告を受けていました。そのことで、数人の保護者から「それなら修学旅行の積み立てを早く返せ」という声が上がっていました。四月当初からの三学年の職員の中にも、「修学旅行に連れていけないと通告してあるので…、東京で何かあっても責任持てない…」という意見がありました。校長と私は、この方針をやめるようにと学年の教師を説得し、「全員で修学旅行に行く」ということを生徒と保護者に伝えました。さらに校長と相談し、一学年主任の私も修学旅行の引率に参加することになりました。利夫たちは、「三学年担任でもないお前がなんで修学旅行についてくるんだ…」などと問い詰めてきましたが…「イチノヘが来てから自分たちが修学旅行に行けるようになった」ことを知っている彼らの目は笑っていました。私は「東京には、警視庁という機動隊を持っている警察がいる。あんたたちが逮捕されたら連れ戻しに行かなければならないので、校長先生が心配して私も一緒に行くことになった…」と嘘の話をしました。

修学旅行の出発式、定刻になっても利夫らは集まらず、近くの広場で丸くなって煙草にライターで火をつけようとしていました。私が発見し、「はい出発するぞー、ほら、ライターの火を消して…」と声をかけるとついてきました。列車に乗ってみると彼らは予想以上に素直でした。決められた自分の席に座り、トランプを始めました。

私は、旅行のしおりの「列車座席表」を手に持って確認しながら、三年生一人ひとりと知り合いになりました。「あんた○○の弟か…」「あんた△△の娘か…」「このむずかしい漢字、なんて読むんだ…」などと声をかけながら列車内の廊下を一往復しました。利夫をはじめ数人の生徒はネームプレート付けていませんでしたが、不思議なことにネームプレートがない生徒の名前と顔はすぐに覚えました。

修学旅行一日目の夕食は、東京・お台場での「豪華バイキング料理」でした。しかし、利夫Gは夕食会場に現れませんでした。利夫の指示で「夕食別会場」に行ったようでした。

私は、彼らがホテルの朝食会場に来ないことは予想していましたが、夕食は来るだろうと思っていました。三〇分ほどして、仲間の一人の克人(仮名)が夕食会場に現れました。克人はバイキング料理を見繕って私の隣の席に座り、おいしそうに食べ始めました。

利夫Gは「中華料理店」に行ったようです。克人は「みんなと食事をしたい」「バイキングを食べたい」ということで、一人で戻ってきたのです。私は、克人の行動に、また少し展望が見えました。

絵手紙　吉田祥子(東青支部)